

福島を復興し、 日本を動かす。

復興大臣として、陣頭指揮を執り、被災者に寄り添い、ふるさとの復興・再生を加速化させてきた根本匠。

福島復興が日本の地方創生をリードする。
復興大臣を経験した根本匠だからできます。

根本たくみ匠

根本匠プロフィール

1951年郡山市生まれ。赤木小、郡山五中、安積高校、東京大学卒業後、建設省入省。1993年衆議院議員初当選。厚生政務次官として年金制度や医療制度の見直し、子育て支援、介護保険の導入などに取り組む。「議員立法の根本匠」「政策新人類」との呼び名を得、英紙Financial Timesなど海外メディアでも話題に。小泉内閣で内閣府副大臣。安倍内閣で総理大臣補佐官を務め、アジアゲートウェイ戦略などの経済成長・国家戦略を遂行。社会保障と経済政策に精通し、衆議院経済産業委員長、党広報本部長、政調副会長、国対副委員長、税調幹事等々歴任。東日本大震災直後、地元郡山市の防災対策アドバイザー、2012年12月国政復帰(6期目)、復興大臣 福島再生総括大臣就任。現在、党金融調査会長、税制調査会副会長、東日本大震災復興加速化本部常任顧問、新生自民党「東北志士の会」代表、東京農業大学客員教授、新風匠塾塾長等。

「ほんものの政治家」の責任。前回選挙時の公約を実現。

子どもたちが安心して暮らせる“誇れるふるさと”に再生

「子ども元気復活交付金」を創設、全天候型運動施設の整備やプレイリーダーの育成、公園の遊具の更新など、ハード・ソフトの両面で、子どもたちが思う存分運動できる環境を整備し、また、「世界レベルの文武両道」を実現できるような教育環境の整備にも取り組みました。



復興の大前提である中間貯蔵施設を整備し、除染をさらに加速

前政権が策定した見通しの甘かった除染計画をすべて見直し、除染・復興を連携させ一体的に加速化を図る取り組みを実施。福島復興・再生の大前提である中間貯蔵施設の整備も進めました。また、被災者の皆様の声を真摯に受け止め、必要十分な賠償を講じました。



風評被害対策をすすめ、農業再生、安全・安心・高品質「ふくしまブランド」を世界に

「ハード」面だけでなく、商品開発や人材育成などの「ソフト」面でも国が積極的に支援することにより、新しい農林水産業の芽が着実に出てきています。風評被害に対しては安全性を国内外で積極的にPRし、経済界などの協力を得ながら「食べて応援しよう!」などの対策を進めました。



健康・医療等の世界最先端のフロンティア産業集積の拠点に

福島の医療機器生産金額は年々増加しており、26年6月には全国3位となっています。この強みを生かし、さらなる競争力強化につなげるため、海外の規制にも対応した医療機器の安全性評価を行う「福島県医療機器開発・安全性評価センター（仮称）」を28年中に開所すべく準備が進んでいます。



省エネと自然エネルギーに集中投資

福島県沖合で実証実験中の洋上風力発電や福島再生可能エネルギー研究所など、科学技術イノベーションを被災地で集中展開。学術研究だけでなく、それを核とした企業誘致や中小企業への成果の普及、自然エネルギー先進地としての広告塔としての効果を期待しています。



根本匠は復興大臣として、福島の復興・再生に尽力

復興大臣在任期間617日のうち100日以上、被災地に足を運んだ根本匠。復興の陣頭指揮を執り、官僚を動かし、被災者に寄り添う施策を進めてきた。

- ① 戻る方には、除染や生活インフラを整備し、**早期帰還支援 大熊・双葉ふるさと復興構想「根本イニシアティブ」**
- ② 長期避難を余儀なくされる方には、**復興公営住宅**を整備
- ③ 新たな生活を始める方には、**必要十分な賠償**の適切かつ迅速な実施

政策本位の政治家 根本匠がめざす 日本“強靱化”プラン

- ① 福島の復興が「地方創生」の先導役となる
- ② 「アベノミクス」を継続し脱デフレ、経済再生を
- ③ 安定した社会保障の構築で、子育て・医療・介護・年金の充実を
- ④ 揺るぎない外交・安全保障政策で生命と国益を守り抜く
- ⑤ 気概や礼節、絆を重んじ、日本の“心”、日本人の“誇り”を取り戻す

政治家が決断し、実行し、責任をとる“真の政治主導”で「ほんものの政治」を遂行